

さいたま市における
市民活動団体と大学との協働に関する実態調査
結果概要

2014年3月20日

2013年度「知（地）の拠点整備事業」

まちづくりコラボレーション～さいたまプロジェクト

芝浦工業大学 システム理工学部

環境システム学科 教授 中村 仁

環境システム学科 教授 作山 康

環境システム学科 学生有志

産官学連携コーディネーター 坂本千晴

目次

1. アンケート概要-----	2
1-1. 趣旨	
1-2. アンケート調査概要	
2. アンケート集計結果-----	4
3. アンケート回答団体の特徴-----	12
4. 調査票（アンケート）-----	13

1. アンケート概要

1-1. 趣旨

芝浦工業大学では、平成 25 年 8 月に文科科学省「知（地）の拠点整備事業」に採択され、地域と大学との協働をさらに進めるべく、プロジェクトが始まっているところである。

本学では、さいたま市、埼玉県、江東区、港区、中央区を対象地域として進めていくこととしている。

ついては、さいたま市内で活躍する市民団体の実態に即した大学との協働を実施するための重要な基礎資料をつくるため、アンケートを実施することとした。

1-2. アンケート調査概要

- ・実施主体：芝浦工業大学地域安全システム研究室
- ・実施対象：さいたま市市民活動サポートセンターが提供する「さぽット」に掲載される団体のうち連絡先を公開している団体
- ・実施方法：郵送配布、郵送回収
- ・実施日程：2014 年 2 月 10 日（月）発送
2014 年 2 月 23 日（日）返送依頼期限
- ・配布数：269 票（住所変更：28 票、受取辞退：9 票）
- ・回収数：66 票（回収率：24.5%、実質回収率：28.4%）

1-3. アンケートの設問と回答選択肢

設問：問〇-〇、回答選択肢：①、②… (自由回答)

本学との関わりについて	
問 1-1) これまで貴団体が本学と関わりをもったことはありますか？ (一つ選んで○をつけてください)	①ある ②ない ③わからない
★問 1-1 で「①ある」を選んだ方のみ回答してください。(複数回答可、○をつけてください)	
問 1-2) 貴団体と関わった学部、学科、研究室はどちらでしたか？ (わかる範囲でお書きください)	(学部 学科 研究室)
問 1-3) 関わった際の活動 (支援または提供) 内容はどのようなものですか？	①専門的な情報提供・助言 (具体的な内容や期間) ②学生の派遣 (具体的な内容) ③学生との共同作業 (具体的な内容) ④情報発信のサポート (具体的な内容) ⑤イベントの企画・運営の共同実施 (具体的な内容) ⑥その他 ()
問 1-4) 本学が関わったことによる効果について、教えてください。	①知識量が増した ②活動を効率的に進められた ③活動範囲が広がった ④人脈が広がった ⑤地域活性化につながった ⑥活動がより意欲的になった ⑦その他 ()
問 1-5) 貴団体が本学と連携した活動を行う際、期待することは何ですか？ (1~5 に○をつけてください)	①専門的な情報提供・助言 5 4 3 2 1 ②学生の派遣 5 4 3 2 1 ③学生との共同作業 5 4 3 2 1 ④情報発信のサポート 5 4 3 2 1 ⑤イベントの企画・運営の共同実施 5 4 3 2 1 ⑥その他 () 5 期待する 4 やや期待する 3 どちらともいえない 2 あまり期待しない 1 期待しない
問 1-6) 本学のシステム理工学部で連携・協力してみたい研究室はありますか？ (①~③に○をつけて、() 内をご記入ください)	①ある (学科 研究室 連携したい内容や期待すること) ②ない (理由) ③わからない
他大学との関わりについて	
問 2) 貴団体が他団体と関わりをもった経験はありますか？ (①~②に○をつけて、() 内をご記入ください)、ある場合は大学名と活動範囲を差し支えない範囲で教えてください。	①ある 大学名：(大学 学部 連携した内容：) ②ない
大学との協働・連携全般について	
問 3) 大学との協働・連携全般について、期待することや課題に感じていることなどありましたら、ご自由にご記入ください。	
貴団体名について	
問 4) 貴団体名について、お聞かせください。	

2. アンケート集計結果

問 1-1) これまで貴団体が本学と関わりをもったことはありますか？

(一つ選んで○をつけてください)

(有効回答数：65)

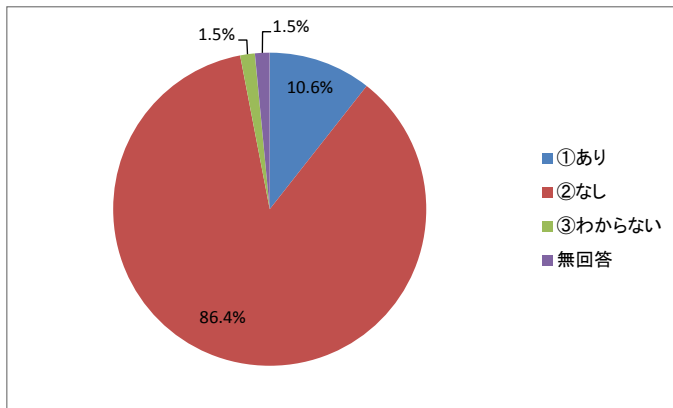


図 2-1：問 1-1 の回答割合

本学との関わりについて、「なし」(86.4%)と回答したのが 8 割を超えており、これまで本学と関わりをもった団体は少なかった。

表 1-1：問 1-1 の回答結果

回答	回答数	割合
①あり	7	10.6%
②なし	57	86.4%
③わからない	1	1.5%
無回答	1	1.5%
計	66	100.0%

問 1-2) 貴団体と関わった学部、学科、研究室はどちらでしたか？

(わかる範囲でお書きください)

(有効回答数：6) ※一団体が複数学部学科に渡って協働経験をしている場合有り

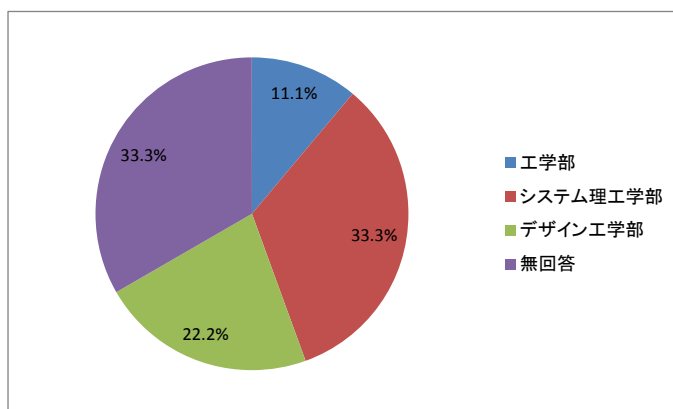


図 2-2：問 1-2 の回答割合

表 1-2：問 1-2 の回答結果

回答	回答数	割合
工学部	1	11.1%
システム理工学部	3	33.3%
デザイン工学部	2	22.2%
無回答	3	33.3%
計	9	100.0%

「システム理工学部」(33.3%)と回答した割合が多かったが、本大学のすべての学部に関わった。

問 1-3) 関わった際の活動（支援または提供）内容はどのようなものですか？

(有効回答数：10)

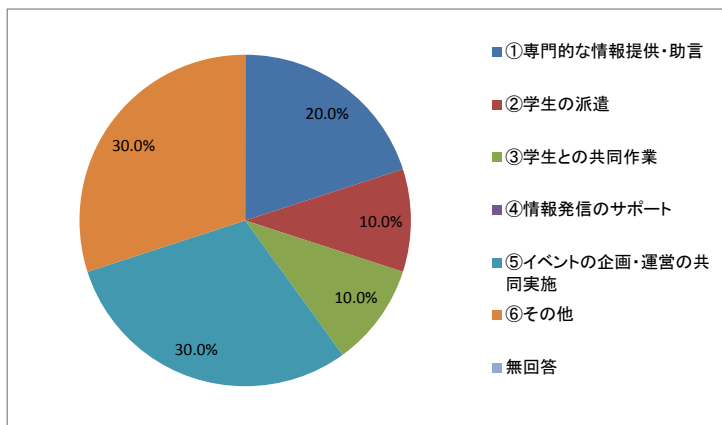


図 2-3：問 1-3 の回答割合

表 1-3：問 1-3 の回答結果

回答	回答数	割合
①専門的な情報提供・助言	2	20.0%
②学生の派遣	1	10.0%
③学生との共同作業	1	10.0%
④情報発信のサポート	0	0.0%
⑤イベントの企画・運営の共同実施	3	30.0%
⑥その他	3	30.0%
無回答	0	0.0%
計	10	100.0%

「イベントの企画・運営の共同実施」(30.0%)、「専門的な情報提供・助言」(20.0%)といった回答がある一方、情報発信のサポートと回答する団体はなかった。

問 1-4) 本学が関わったことによる効果について、教えてください。

(有効回答数：15)

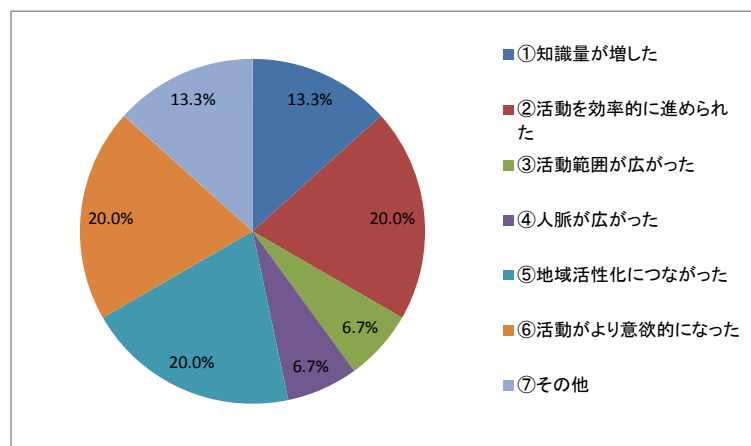


図 2-4：問 1-4 の回答割合

表 1-4：問 1-4 の回答結果

回答	回答数	割合
①知識量が増した	2	13.3%
②活動を効率的に進められた	3	20.0%
③活動範囲が広がった	1	6.7%
④人脈が広がった	1	6.7%
⑤地域活性化につながった	3	20.0%
⑥活動がより意欲的になった	3	20.0%
⑦その他	2	13.3%
無回答	0	0.0%
計	15	100.0%

「活動を効率的に進められた」、「地域活性化につながった」、「活動がより意欲的になった」と回答した割合がそれぞれ 20.0%であり、全体的にはバランスよく回答されている。

問 1-5) 貴団体が本学と連携した活動を行う際、期待することは何ですか？

(1～5 に○をつけてください)

(〔①専門的な情報提供・助言〕の有効回答数：55)

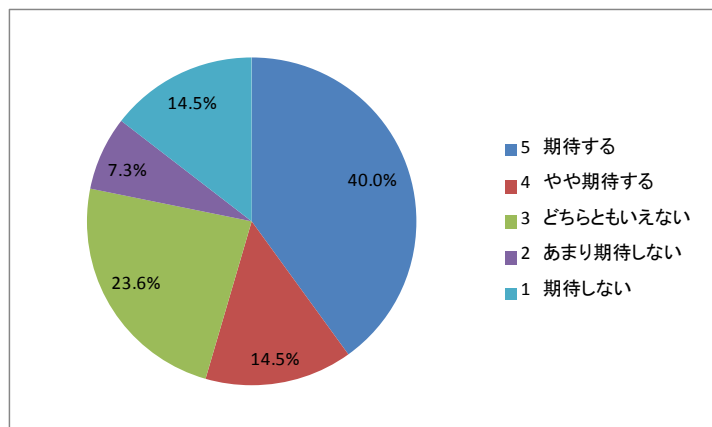


図 2-5-1：「①専門的な情報提供・助言」に対する回答割合

「期待する」、「やや期待する」を合わせた回答は 54.5%で半数を超える回答であり、特に「期待する」(40.0%)と回答した団体が多かった。

表 1-5-1：問 1-5 の①に対する回答結果

①専門的な情報提供・助言	回答数	割合
5 期待する	22	40.0%
4 やや期待する	8	14.5%
3 どちらともいえない	13	23.6%
2 あまり期待しない	4	7.3%
1 期待しない	8	14.5%
計	55	100.0%

(〔②学生の派遣〕の有効回答数：54)

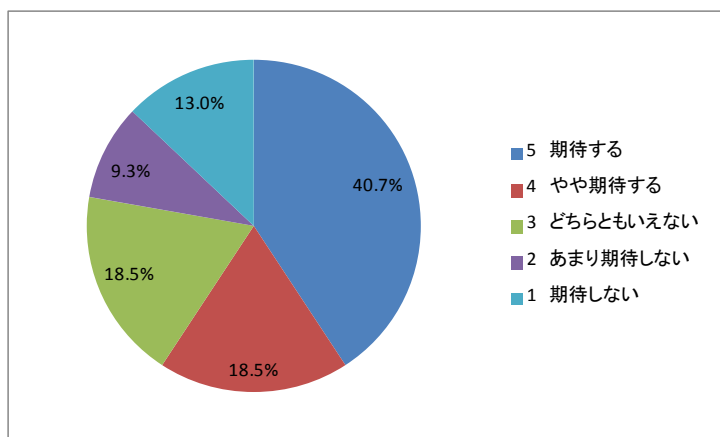


図 2-5-2：「②学生の派遣」に対する回答割合

「期待する」、「やや期待する」を合わせた回答は 59.2%で 60%近い回答であり、特に「期待する」(40.7%)と回答した団体が多かった。

表 1-5-2：問 1-5 の②に対する回答結果

②学生の派遣	回答数	割合
5 期待する	22	40.7%
4 やや期待する	10	18.5%
3 どちらともいえない	10	18.5%
2 あまり期待しない	5	9.3%
1 期待しない	7	13.0%
計	54	100.0%

(「③学生との共同作業」の有効回答数：57)

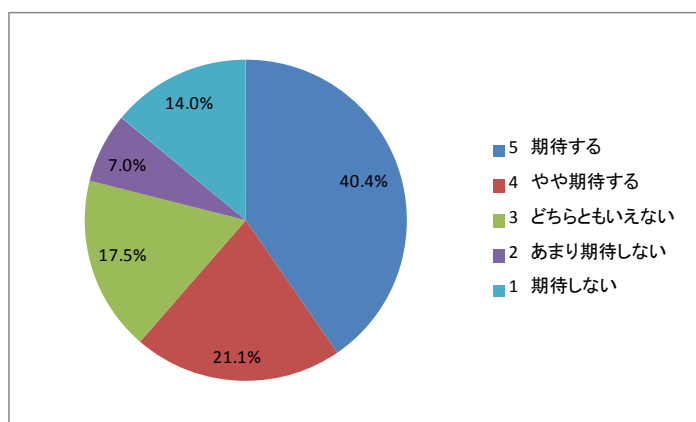


図 2-5-3：「③学生との共同作業」に対する回答割合

表 1-5-3：問 1-5 の③に対する回答結果

③学生との共同作業	回答数	割合
5 期待する	23	40.4%
4 やや期待する	12	21.1%
3 どちらともいえない	10	17.5%
2 あまり期待しない	4	7.0%
1 期待しない	8	14.0%
計	57	100.0%

「期待する」、「やや期待する」を合わせた回答は 61.5%で 60%を超える回答であり、特に「期待する」(40.4%)と回答した団体が多かった。

(「④情報発信のサポート」の有効回答数：55)

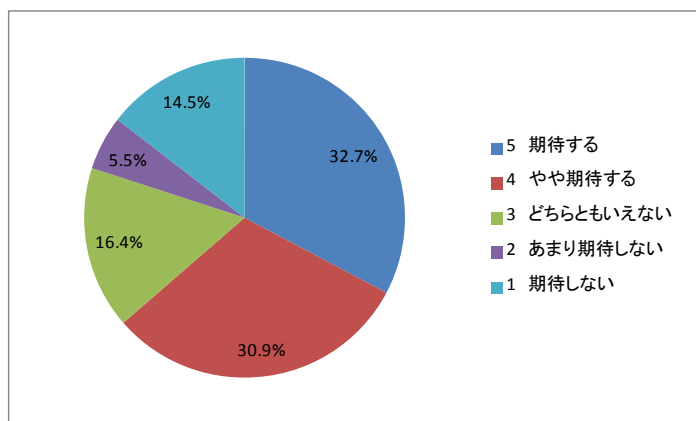


図 2-5-4：「④情報発信のサポート」に対する回答割合

表 1-5-4：問 1-5 の④に対する回答結果

④情報発信のサポート	回答数	割合
5 期待する	18	32.7%
4 やや期待する	17	30.9%
3 どちらともいえない	9	16.4%
2 あまり期待しない	3	5.5%
1 期待しない	8	14.5%
計	55	100.0%

「期待する」、「やや期待する」を合わせた回答は 63.6%で 60%を超える回答であった。「期待する」(40.4%)、「やや期待する」(30.9%)と回答した団体は同じ程度であった。

〔⑤イベントの企画・運営の共同実施〕の有効回答数：57)

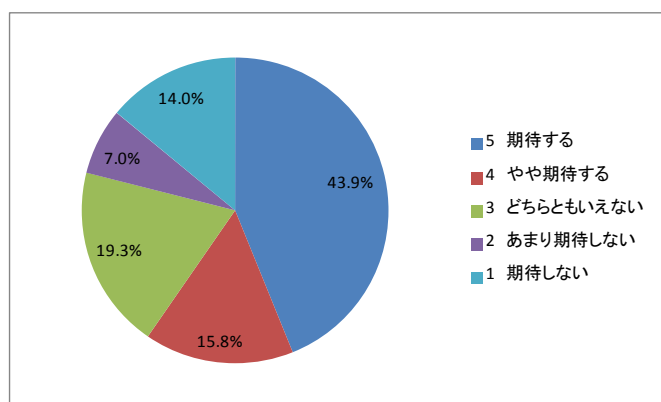


表 1-5-5：問 1-5 の⑤に対する回答結果

⑤イベントの企画・運営の共同実施	回答数	割合
5 期待する	25	43.9%
4 やや期待する	9	15.8%
3 どちらともいえない	11	19.3%
2 あまり期待しない	4	7.0%
1 期待しない	8	14.0%
計	57	100.0%

図 2-5-5：「⑤イベントの企画・運営の共同実施」に対する回答割合

「期待する」、「やや期待する」を合わせた回答は 59.7%で 60%近い回答であり、特に「期待する」(43.9%)と回答した団体が多かった。

〔⑥その他〕の有効回答数：16)

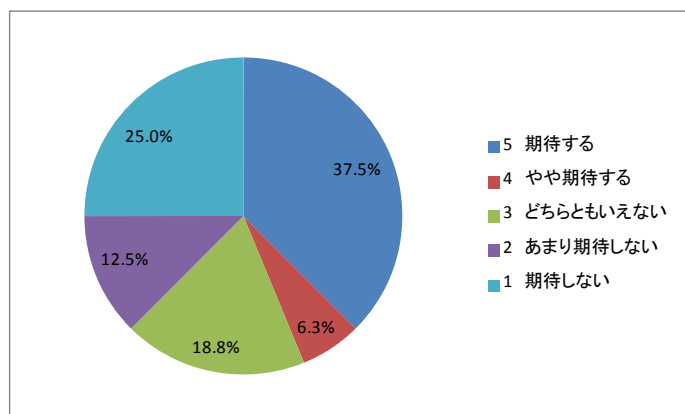


表 1-5-6：問 1-5 の⑥に対する回答結果

⑥その他	回答数	割合
5 期待する	6	37.5%
4 やや期待する	1	6.3%
3 どちらともいえない	3	18.8%
2 あまり期待しない	2	12.5%
1 期待しない	4	25.0%
計	16	100.0%

図 2-5-6：「⑥その他」に対する回答割合

「期待する」、「やや期待する」を合わせた回答は 43.8%と回答した団体が多かったが、その内容としては「福祉と資金的な援助」、「学生等とのネットワーキング」、「街づくり」、「協働研究の道」といった回答があった。

問 1-6) 本学のシステム理工学部で連携・協力してみたい研究室はありますか？

(①～③に○をつけて、() 内をご記入ください)

(有効回答数 : 61)

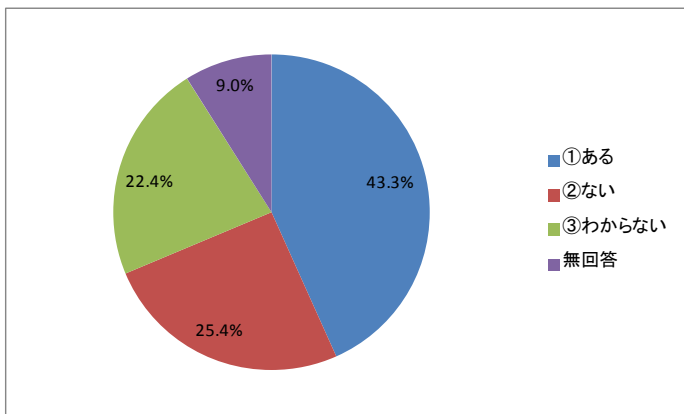


図 2-6 : 問 1-6 の回答割合

表 1-6 : 問 1-6 の回答結果

回答	回答数	割合
①ある	29	43.3%
②ない	17	25.4%
③わからない	15	22.4%
無回答	6	9.0%
計	67	100.0%

(有効回答数 : 55)

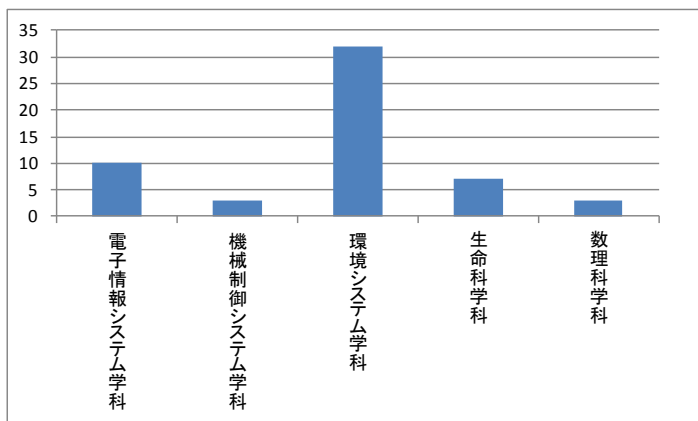


図 2-6-1 : 「①ある」の連携先回答割合

表 1-6-1 : 「①ある」の連携先の回答結果

回答	回答数	割合
電子情報システム学科	10	18.2%
機械制御システム学科	3	5.5%
環境システム学科	32	58.2%
生命科学科	7	12.7%
数理科学科	3	5.5%
計	55	100.0%

「ある」(43.3%)と回答した団体が多く、その中でも連携先として「環境システム学科」(58.2%)が 60%近く挙げられた。システム理工学部全体でみると、名前が挙げられていない学科はなかった。

問2) 貴団体が他団体と関わりをもった経験はありますか？(①～②に○をつけて、()内をご記入ください)、ある場合は大学名と活動範囲を差し支えない範囲で教えてください。

(有効回答数：61)

※一団体が複数大学(学部・学科)に渡って協働経験をしている場合有り

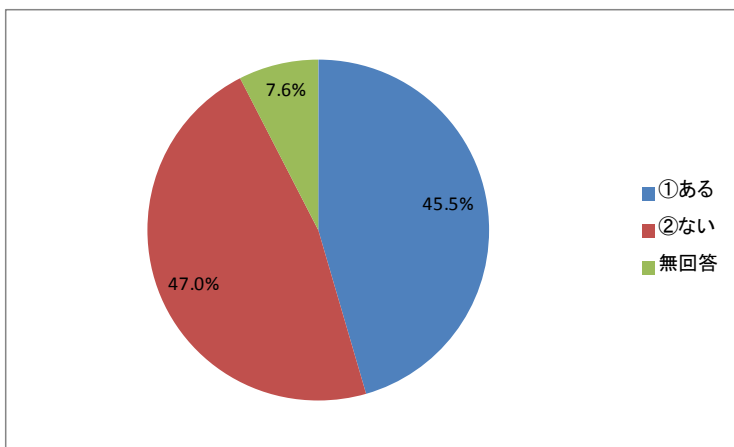


図 2-7 : 問 2 の回答割合

表 1-7 : 問 2 の回答結果

回答	回答数	割合
①ある	30	45.5%
②ない	31	47.0%
無回答	5	7.6%
計	66	100.0%

(有効回答数：33)

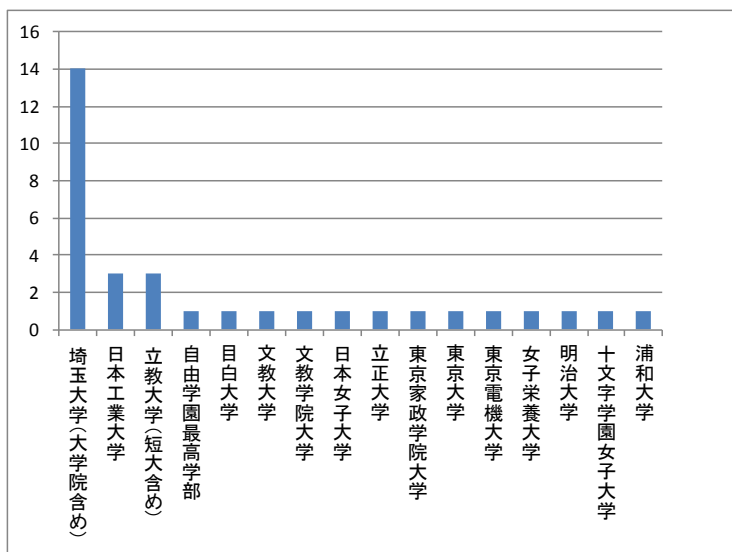


図 2-7-1 : 「①ある」の連携先大学の回答割合

表 1-7-1 : 「①ある」の連携先大学の回答結果

回答	回答数	割合
埼玉大学(大学院含め)	14	42.4%
日本工業大学	3	9.1%
立教大学(短大含め)	3	9.1%
自由学園最高学部	1	3.0%
目白大学	1	3.0%
文教大学	1	3.0%
文教学院大学	1	3.0%
日本女子大学	1	3.0%
立正大学	1	3.0%
東京家政学院大学	1	3.0%
東京大学	1	3.0%
東京電機大学	1	3.0%
女子栄養大学	1	3.0%
明治大学	1	3.0%
十文字学園女子大学	1	3.0%
浦和大学	1	3.0%
計	33	100.0%

「ある」(45.5%)と「ない」(47.0%)が同じ程度回答された。「ある」の中でも「埼玉大学(大学院含め)」(42.4%)が最も多く、全体として16の大学(大学院、短大含め)が挙げられた。

問3) 大学との協働・連携全般について、期待することや課題に感じていることなどありましたら、ご自由にご記入ください

(有効回答数：48)

回答	回答数	割合
記入有り	48	72.7%
記入なし	18	27.3%
計	66	100.0%

多くの期待や課題に関する意見が回答された（72.7%）。

なお、意見の内容としては、協働・連携に対する全般的な期待、各団体の活動分野での協働・連携の期待（まちづくり全般、健康・医療、子育て・教育、高齢者、世代間交流、自然・歴史、その他）、協働・連携に対する課題（ニーズがない、団体側で受けられない、学生にはまかせられない）、協働・連携の進め方（まずは交流してみる、窓口がほしい）など、多岐にわたっている。

問4) 貴団体名について、お聞かせください。

(有効回答数：66)

回答	回答数	割合
記入有り	66	100.0%
記入なし	0	0.0%
計	66	100.0%

3. アンケート回答団体の特徴

問4で回答の得られた団体における活動分野は以下の通りである。¹

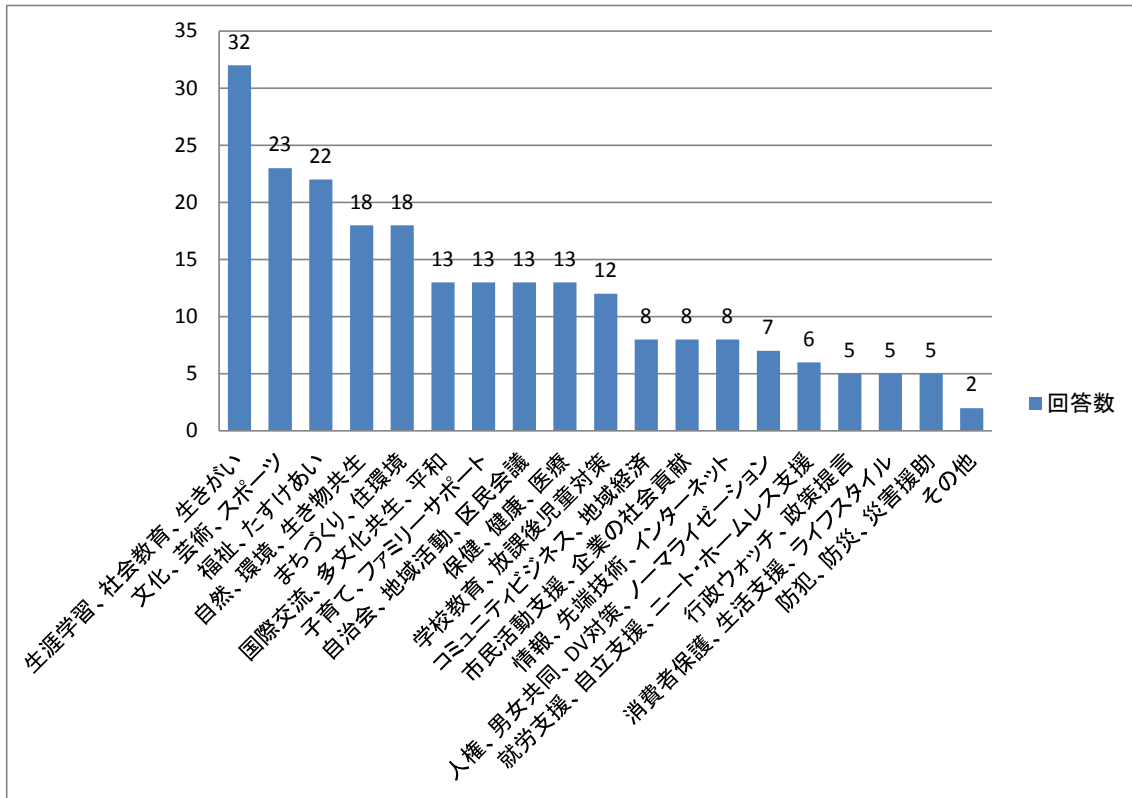


図 3-1: 各団体の活動分野状況

アンケート回答団体の特徴をみると、生きがいや文化など個人のライフスタイルの充実を目的とした活動団体が多い。次に多いのが、自然環境や生活環境の向上を目的とする団体である。また、子育てや自治会などに関係する活動団体、社会システムや文化の理解・支援などに関係する活動団体も多い。

¹ 「さいたま市市民活動サポートセンター」に登録してある情報をもとに作成。

4. 調査票（アンケート）



各位

平成 26 年 2 月 10 日

芝浦工業大学

「まちづくりコラボレーション～さいたまプロジェクト」

システム理工学部 環境システム学科

教授 中村 仁

市民活動団体と大学との協働に関する実態調査(アンケート)

ご協力をお願い

皆様には日ごろから本学にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、芝浦工業大学では、平成 25 年 8 月に文部科学省「知(地)の拠点整備事業」に採択され、地域と大学との協働をさらに進めるべく、プロジェクトが始まっているところです。本学では、さいたま市、埼玉県、江東区、港区、中央区を対象地域として進めていくこととしております。

ついては、さいたま市内で活躍する市民団体の皆様の実態に即した大学との協働を実施するための重要な基礎資料をつくるためにアンケートを実施することになりました。ご協力いただければ幸いです。

★アンケート締切日 2 月 23 日(日)(当日消印有効)★

調査の取扱いについて

- ・ この調査は、さいたま市市民活動サポートセンターのご了解のうえ、「さポット」に掲載される団体のうち連絡先を公開している団体を対象に配布しております。
- ・ 調査結果は、本学の市民団体との協働の推進計画づくり、市民団体との協働事業づくりの参考にいたします。
- ・ 個々のご回答の内容を公表することは、一切ございません。
- ・ この調査の集計結果の概要は、本学ホームページや文部科学省への事業報告等に掲載させていただきます。

この調査についてご不明な点などございましたら、お手数ですが下記までお問い合わせください。

担当: 芝浦工業大学 産学官連携・研究支援課

産学官連携コーディネーター 坂本千晴

tel 03-5859-7180

E-mail i036657@ow.shibaura-it.ac.jp

